第１回安曇野市水環境基本計画策定委員会

議事概要

日　時：平成 26 年８月８日（金）　13：00～15：30
場　所：安曇野市穂高支所　第２会議室（東棟２階）
出席者：委員 12 名、コンサル業者（八千代エンジニヤリング）２名
　　安曇野市長、市民生活部長、環境課４名
　　傍聴者３名（内、報道関係３名）

議事次第

１．開会
２．委嘱書交付
３．市長挨拶
４．自己紹介
５．正副会長選出
６．正副会長挨拶
７．議題
　（１）設立経過・趣旨説明について
　（２）安曇野市地下水資源強化・活用指針について
　（３）水環境基本計画策定に係る課題について
　（４）今後の進め方について
　（５）意見交換
　　①テーマ１「涵養施策のアイデア出し」
　　②テーマ２「涵養施策に係る資金調達のアイデア出し」
　（６）その他
８．閉会

配布資料：
安曇野市水環境基本計画策定委員会委員名簿
安曇野市水環境基本計画策定委員会設置要綱
資料１　指針報告後の経緯
資料２　地下水の保全・涵養及び適正利用に関する条例（概要版）
資料３　安曇野市地下水資源強化・活用指針
資料４　水環境基本計画策定に係る課題
資料５　水環境基本計画策定までのスケジュール（案）
資料６　水環境基本計画策定に向けたスケジュール（案）
資料７　安曇野での取組み案 - 涵養施策 -
資料８　安曇野での取組み案 - 涵養施策に係る資金調達 -
（参考配布資料）10/12 開催「地下水で拓く安曇野の未来」シンポジウムチラシ

■議事概要

１．開会

２．委嘱書交付

３．市長挨拶

４．自己紹介

５．正副会長選出

６．正副会長挨拶

・委員の互選により、以下のとおりとなった。

会　長：遠藤崇浩　大阪府立大学　現代システム科学域　准教授

副会長：上條和男　安曇野市商工会（就一郎漬本舗　代表取締役）

・本委員会の議事録概要が公表されることについて了承された。

※以下、議事概要は、各議題における委員からの意見を記載する。

７．議題

（１）設立経過・趣旨説明について

（２）安曇野市地下水資源強化・活用指針について

・議題２項目をまとめて進行する。

・事務局より、資料１、資料２、資料３を説明。

・質疑等なし。

（３）水環境基本計画策定に係る課題について

・事務局より、資料４を説明。

＜質疑＞

高原委員：「当面の課題」について記載があったが、第２回以降の委員会で具体的に議論するという理解でよいか。

遠藤会長：そのとおり。本日の第１回は、全体の話をする場である。

遠藤会長：事務局に確認したい。資料の P1 に、第１期から第３期までの段階的な目標が示されているが、本委員会で議論する水環境基本計画は、どの段階までを対象とするか。

事務局（大向課長）：本来的には第３期までを議論すべきであるが、まずは現実的な課題として第１期に絞り込んだ議論を進めることが重要と考えている。よって、本委員会で検討する水環境基本計画は、「第１期（地下水収支のバランスを確保）」を目標とした計画について議論頂きたい。

遠藤会長：了解した。

（４）今後の進め方について

・事務局より、資料５、資料６を説明。

＜質疑＞

桜井委員：スケジュールに、本策定委員会と別に、「環境研究総合推進費」「環境省モデル事業」等の環境省案件が記載されている。地下水涵養等の取組みによる効果を科学的に明確

化することを主眼として、並行して検討を進めるという理解で良いか。

事務局（高野主査）：良い。環境省と連携した取組みは、地下水涵養効果を科学的に研究・分析し明らかにすると同時に、当市「水環境基本計画」策定に必要な地下水構造の科学的研究・分析と地下水保全管理等、社会システム構築のための仕組みづくりを目的に進めたい。

丸山委員：国による新たな法整備の動きもあるが、土地の所有権の問題など、今後の動きもあると想定される。検討の流れの中に、外国資本による土地買収といった事項を盛り込めないかという点について、要望する。

事務局（高野主査）：法整備を受け、政府側でもこれからの動きがある。国の動きに注視し、環境省等で動きがあれば、適宜、情報等を提供するとともに当市「水環境基本計画」策定スケジュールも国の動きに足並みをそろえる方向で進めたい。

高原委員：地下水の減少量とした年間 600 万 t は、どこで測定した結果に基づき算出したのか。

八千代（山本）：資料３（指針）の P15 をご覧いただきたい。三川合流の他、三郷や堀金など、一定範囲内を対象とし算出した。具体な測定箇所はこのページには標記していないが、数十地点の井戸の測定データに基づいている。

高原委員：過年度の委員会で、河床が 1.5m 低下したことについて国交省から説明があった。河床低下が地下水減少に影響したと考えている。国交省も検討委員に含めるべきではないか。また、砂利採取後の穴に土を入れる行為により、三川合流の水質が悪化している。これら水量・水質の課題を一緒に解決していく必要があると考えている。。

事務局（大向課長）：先ほどの環境省案件での検討を通して、地下水の構造を明らかにしていく過程で、議論すべきところがあれば議題としていきたい。

遠藤会長：河床を上昇させるという対策は、抜本的だが非常に大がかりとなる。現時点では、できることは何かという観点から議論を進め、取組みを前に進める姿勢も重要である。

深澤委員：地下水に関するデータの継続的な把握等、取組みは非常に重要と考える。農家に影響がでないよう検討を進めて欲しい。

遠藤会長：前回検討から２年が経過した。データ等の蓄積も進んでいることから、現時点の状況を整理・確認し、提供していきたい。

岡部委員：　平成 29 年以降の麦後湛水の目標面積を 100ha 以上、16,500 千円とする数値目標が示されているが、これが最終目標という理解で良いのか。足りるのか懸念している。

事務局（大向課長）：麦後湛水が全てではなく、むしろ、本委員会でその他の涵養方法を議論頂きたい。また、100ha が最終目標ではない。なお、これまでの検討では、年間 600 万 m^3 を涵養するには、342ha が必要と試算しており、実現に向けては、農業者や土地改良区の理解・協力が重要と考えている。

中屋委員：湛水する場所は、山側等、効果的な地点を選定する必要がある。川の近くでは湛水してもすぐに川に流出してしまう。どのような場所を選定しているのか。

事務局（大向課長）：三川合流部の近傍ではなく、涵養効果の確保の観点から、JR 以西、豊科駅以南を一つの目安としている。

（５）意見交換

・オブザーバ（八千代）より、資料７、資料８を説明。

上條副会長：現状把握が第一である。その次にどのような施策を行っていくかが重要。施策は涵養施策が主となるが、同時に節水や水の再利用の施策を検討すべき。現状を踏まえ、必要な施策の中から実現可能なものを行った場合に必要となる資金を算出し、その段階で負担について議論するのが良い。資金の議論を最初に行うと良いアイデアが出ないので最後に行うべきである。まずは、前向きにあるべき姿を検討していくことを望む（中座）。

遠藤会長：大変貴重な意見に感謝する。

桜井委員：松本市等周辺自治体の動きは。

事務局（蓮井係長）：アルプス地域地下水保全対策協議会が設立・運営されている。

桜井委員：それは安曇野市のこれまでの活動に呼応した広域な取組み団体との認識で良いか。

事務局（蓮井係長）：良い。松本盆地という広域な水がめの維持に関して議論している。

遠藤会長：意見交換の場であるので、各委員より一言、意見やアイデアをいただきたい。

中屋委員：松本盆地の砂礫層は透水性が良いため、沖縄の地下ダムのように水を貯めるというのは困難であろう。対象地の状況を理解した上で、良いアイデアを出していきたい。

遠藤委員：工業会の中には地下水がないと活動を行えない大手会社が 10 社ほどある。工業会としては、本委員会の活動に関心を持っている。安曇野市が目指す田園産業都市のますますの発展に対し工業会として協力していく。なお、安曇野カントリークラブでの散水目的で、山からの沢水を山裾の池に貯めている。同様に山裾に大きな池を作り、そこに山からの沢水を貯めて地下に浸透させる取組みは有効ではないか。

桜井委員：工業会として、また事業者として可能なことは協力していきたい。本委員会で策定する計画に関しては、関係者が創って良かったと思えるものを創っていきたい。

丸山委員：本委員会で策定する計画は、水を使う側のわさび業者としては、ありがたいことである。ちなみに、ここ２年ほどの観測結果では、わさび田の地下水位が安定している。近年、降水量が多いことが原因かもしれないが、２年前から取り組まれている麦後湛水の効果もあるのだろうと前向きに捉えている。わさび組合として、協力したい。

高原委員：佐久や飯田では河川水を取水し鯉や鮒を育てている。川沿いの水田に河川水を導水し、鮒などを飼ってみてはどうか。これによる地下涵養が期待される。

宮澤委員：農業従事者として本委員会に参加することにやりがいを感じている。一方、農作機の燃料費高騰といった営農環境上の課題も踏まえながら、よりよい取組みとなるよう考えていきたい。なお、山裾には畑や果樹園が広がっているが、相当な量を灌水していると考えられる。また、飼料米の生産が増えているので、水田は増えているのではないか。

深澤委員：市内には 12 の土地改良区がある。土地改良区としては、麦後湛水が増えることで、水田耕作に利用する水が減ることを心配している。

相馬委員：堰の歴史を調べてみた。1963 年以前は、堰の整備が十分でなく、湛水できない水田が多くあった。整備後、堰から取水できるようになり湛水できる水田が増えた。これによる地下涵養に対する効果があるのではないか。灌漑用水が果たす役割を考えながら、今後を検討したい。

岡部委員：安曇野の地下水の特徴として湧水が挙げられる。湧水は、夏場は豊富で足りているが、冬場（２月～３月）が少なく、わさび田が最も影響を受けやすい。わさび田では、５

cm 水位が低下するだけでも大打撃を被る。以前、９月～10 月に水田に湛水する「秋水たんぼ」を提言した。これにより、冬場の水位低下時期がある程度遅くなることで、影響が出にくくなることが期待される。安曇野では、田園風景を守ることが大切ではないか。

新村委員：本委員会での取組みに水質の点から貢献したい。安曇野市の（地下水の）水質の特徴であるが、30 年ほど調査しているが、ほとんど劣化しておらず良質な水質が維持されていることが挙げられる。また、硝酸性窒素濃度に関しては、年間変動に乏しいことが特徴として挙げられる。

遠藤会長：様々な意見を頂いたことに感謝する。第２回以降も前向きな議論をお願いしたい。

（６）その他

・事務局より、以下の３点を説明。

①平成 26 年 10 月 12 日（日）にシンポジウムを開催する。ご理解・ご協力を賜りたい。

②日程未定だが、来年度、名水サミットを安曇野市で開催する。ご理解・ご協力を賜りたい。

③次回日程について調整したい。

・次回は、平成 26 年 11 月 13 日（木）13：30 開始とする。場所は穂高支所とする。

８．閉会

以上